

第7回放射線管理士セミナーに参加して（セグメントの実習と意見交換会）

神奈川県放射線管理士部会 聖マリアンナ医科大学ブレスト&イメージングセンター

前里 美和子

①NASチーム（横須賀三浦原子力災害特別派遣チーム）のセグメント法の紹介と実習について

神奈川県管理士部会およびNASチーム所属の田島氏から、サーベイメータの種類、機能、特徴、取扱い方法、保守点検等について詳細な説明がありました。サーベイメータは日頃取り扱う機会が少ないので再確認する良い機会がありました。

橋本氏からは原子力災害時における放射線汚染のスクリーニング検査法である、NASチームが考案した「セグメント法」の紹介があり、神奈川県放射線管理士部会スタッフのデモンストレーションも行われ、参加して頂いた愛知県診療放射線技師の皆様も熱心に見学していました。

セグメント法実習では、2名で組んで時間を計りながらサーベイの実習を行いました。サーベイメータの台数が限られているので、代わりに紙コップで代用して行い、参加者全員が実習を行う事ができました。



②意見交換会 「原子力災害における診療放射線技師の役割と今後の展望」について

意見交換会では、富山県から参加頂いた技師より、「福島原発事故の時、衣類や汚染水の取り扱いはどうしていたのか？」という質問を受け、実際に福島の災害現場でスクリーニング作業に参加した濱田氏より「災害現場では汚染した衣服等は洗濯してもらって普通に排水していた。」との回答があり、日常、管理下にある放射性物質の取扱いとは大きくかけ離れている事の認識を共有する事が出来た。

次に神奈川県スタッフより、「今後の展望、技師の役割について、被ばく相談員について？」の質問がありました。濱田氏からは、「診療放射線技師は市民にも認められるようになつたので、いろいろな場で被ばくについての市民の疑問や不安に答えるても良いのではないか（そのためには勉強も必要）。」

愛知県南保氏から「外に出て行って正しい情報を提供する。放射線管理士が出ていく場所はあるのではないか」また「被ばく相談員は現在、放射線管理士を有するものが条件となっており、放射線カウセリング学会を中心に講義、認定を行っている最中です。」と回答がありました。

セントメディカル・アソシエイツ LLC の広藤氏からは、「放射線技師ひとりひとりのスキルアップが必要で、これまでの知識では足りない部分もある。がしかし、放射線技師は期待されている事は確かです」との回答がありました。

少ない時間ではありましたが活発な意見交換会となりました。

最後に神奈川の濱田氏より「今回の講習会で自分で実際に実演してみて分かった事があると思います。是非自施設に戻って講師をしていただきたい」との挨拶がありました。

今後もこのようなセミナーに参加し、自己研鑽に努めていきたいと思います。